



# JWC2009報告 DEFENSE TEAM

JWC2009 LBコーチ  
有澤 玄

# Agenda

- コーチングスタッフ(体制)
- 準備(戦略 / メンバー)
- Game Plan
  - ードイツ戦 (2009年6月27日)
  - ーカナダ戦 (2009年7月1日)
- 今後の課題

# ディフェンス コーチングスタッフ

ディフェンスコーディネーター

**武田 真一**

(大産大付属高校)  
(吹田マーヴィーズ)

【GLOBAL CHALLENGE BOWL 2008 参加】

DLコーチ

**古橋由一郎(HC兼務)**

(立命館大学)

【GCB2008 参加】

**木戸宗子郎**

(名城大学)

【GCB2008 参加】

LBコーチ

**有澤 玄**

(鹿島ディアーズ)

【GJC2007 参加】

DBコーチ

**武田真一**

(大産大付属高校)  
(吹田マーヴィーズ)

【GCB2008 参加】

## 準備（戦略）

- Play Bookの準備
    - － 初戦のドイツ戦は決まっていた。
    - － ドイツの情報はヨーロッパ選手権の映像のみ。  
→ 2RB TEありからのRUN主体のチーム。
    - － ドイツに勝利した場合、次戦はカナダ。個々の能力があがり、Passの比重が増えることが予想される。
- ⇒ 結果、Play Callにある程度の幅が必要とされる

## 準備（戦略）

- この点は、選手がどれくらいについてこれるのか？不安がありました。選手理解力は非常に高く問題ありませんでした。

## 準備（メンバー）

- 選考にあたりポジション別に重点視したところ。
  - **DL** : OLが一回り以上大きいので低く早くSTARTしてLOSがいかにあげられるか？ STUNTS、SLANTでいかに混乱させることができるか？ サイズよりもクイックネスやSTARTを優先させた。
  - **LB** : 絶対条件としてはしっかりと踏み込んだ強いTACKLEができること。次に相手の情報がすくないので、どのような隊形、PLAYがきてもしっかりとADJUSTできる対応力。
  - **DB** : LBの内容に加味して、肩が強いQB、背の高いWRが相手でもDEEPをしっかりと守れること。レベルが同じであればより大きな選手を優先させた。
- 結果 DL:8名 LB:6名 DB:8名でディフェンスチームを構成

# 第1戦 ドイツ戦のGame Plan

- 体格を生かした主にTEとFBをつけた隊形からのRUNチーム。
- PLAYの種類もそれほど多くはなかったもので、それに対する準備はしっかりできた。
- 初戦であったことと、そのRUN偏重の意識ばかりで、スペシャルプレイでDEEPやられたことは、選手の判断を指摘するだけでなく、意識の中に忘れてはいけないこととして、もっと刷り込んでいたほうが良かったのではないかと感じた。

## 第2戦 カナダ戦のGame Plan

- カナダチームの特徴として
  - 隊形及びPLAYのバリエーションは、前のドイツ戦と比べ物にならないくらい幅がある。
  - 二人のQBが極めて、特長を二分していたことと、体型や面子からある程度の傾向がでていたので、QBと交代メンバーを確認して対応。
  - スキルポジションのレベルが高かったのでタックルをしっかりと決められるのかが懸念点の一つでした。

## 第2戦 カナダ戦のGame Plan

- 結果としてある程度3-Lのシチュエーションは作れたが、3-Lに、充分パスカバレッジができなかったり、タックルミスが多く。接戦をものにできなかった。

# カナダ戦のスタッツ

	JAPAN	CANADA
ファーストダウン(回数)	17回	20回
攻撃(回数-獲得ヤード)	50-376yds	68- <b>461</b> yds
パス(試投-成功-獲得ヤード)	33-23-319yds	33-21-287yds
ラン(回数-獲得ヤード)	17-57yds	35-174yds

※総喪失ヤード461ヤードの内、約150ヤードはタックルミス後のGAIN。

# 今後の課題

## 踏み込んだ芯をとらえるタックル

- ラインの大きさの違いによる差はある程度対応できたが、スキルポジションの体の芯の強さの差によるタックルミスが大きかった。

## 今後の課題

- サイズUP(平均DLのサイズがLBを)
- フィジカルUP(確実にUPLしているが)
- スキル練習(踏み込み・アプローチ等)
- メンタル強化



ご清聴ありがとうございました。